

## 第25話 卯月：外国語における課題発見解決学習

平成32年度から、全国の小学校において、3・4年生は外国語活動が、5・6年生では教科として外国語が導入されます。これに伴い、本校では、広島県及び海田町のご支援をいただきながら、今年度から3年生から6年生までの授業時数をそれぞれ35時間ずつ増加して外国語の指導を行っております。



4月26日、県内各地から指導主事の先生や研修協力校の校長先生方をお迎えして、本校で実践発表会（授業提案と指導計画等の発表）が行われました。本校の岩本教諭と清水教諭が、子どもたちが主体的に学ぶために、これまでの授業の在り方をいくつか見直して臨みました。

まず、子どもたちが学習課題を設定するように配慮しました。テレビの英語番組のように、この2人の教員が、英語でやり取りをする

場面を子どもたちに見せながら、課題を見つけさせました。具体的には、本時の目標は、「I like ~」という言い方に慣れて、児童同士で使えるようになることでしたので、「サラダパーティーを開催したいが、サラダの中にどんな野菜を入れたらよいのかで、困っている」と子どもたちに伝えて、学ぶ必然性をもたせました。この活動により、「何のために英語を聞くのか」「何の情報を得たいのか」等の目的意識をもって聞かせることができたように思います。

次に、学習課題を解決するために必要な手立て（見通し）をもたせることです。教師のやり取りの中で、「一番たくさん聞こえてきた言葉は？」と尋ねたところ、子どもたちは、すぐに“I Like” “I don't like”に気付きました。そこで、はじめて黒板に文字カードで、“I like ~” “I don't like ~”という基本文型を掲示しました。こうした活動を積み重ねていくことにより、英語を教えてもらうのではなく、自分たちで学んでいく（気づいていく）態度が身についていくように思いました。

3つ目は、友だちと英語を使って話すことによって学んだことを意識させることです。本時では、好きな野菜や嫌いな野菜を英語で話し合い、聞き合いましたが、担任が、「友達と話して、新たな発見がありましたか？」と尋ねたところ、「好きなものが自分と同じだ」「ぼくが好きなものが、相手は大嫌いだった」等々。英語を使ったことで、相手の意見がより新鮮に聞こえてきたようでした。他者理解が進んだ活動でした。

このように、子どもたちの生活に根差した必然性のある学び、友だちの言葉から新たな発見が見つけられる学びを追求するとともに、子どもたちが間違うことを恐れず、積極的にコミュニケーションを図ることができるように研究を積み重ねていきたいと考えております。

